



【2019-04-03】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

依存症化した企業社会

長野修二

依存症化した企業社会

ニュースをみていたら、昨年起きた新幹線台車問題の報告について報道がなされてました。

結論は、運転士と運行管理者双方、相手が運転停止を報告してくるだろうと、意思決定を相手に依存していたということでした。現代経済社会（特に交通機関などでは）では、高速でしかも緻密な仕組みで利益を上げるようになっていきますので新幹線なども簡単に停止できない背景（運行と利益優先）があると考えています。

記事にある「『止める決断』とがめぬ風土を」ということは、現代企業においてもっともむずかしいことではないでしょうか。理由は、常に責任は誰がとるのかということがあいまいにされているのが現代企業の掟だからです。

この雑感に何度も書きましたが、工場における事故や火災などの災害も似たような環境で発生しているのではないのでしょうか。

「止める」や「確認する」といった行動は、すぐに利益に直結するからです。

経営者から末端の社員まで誰も利益に対する責任を取りたくありませんから、[記事](#)にあるような「正常性バイアス」は必然なのです。

例え死亡事故をとまなうようであっても、なかにはボーイングのように運行を継続していた事実は経済原理そのものではないのでしょうか。二度全員死亡という大きな代償によってはじめて機材は運行停止となりました。

現代の企業は、ほとんどこのような状況にあると考えていたほうがよいでしょう。

新幹線とて経済原理の前には、無事故でいられない存在かも知れません。

なにかを見直さなければならない時代にきていますが、コンプライアンス制度も有効に機能しないとなれば、経営者の報酬が増大している今、このような事故における最終責任は経営者にあるとする法律を施行して事故を起こした経営者を厳罰に処することでしか、事故を未然に防ぐことは不可能なのかも知れません。

それにしても人間のための便利さが、人間を束縛し、一歩間違えば死亡事故につながるような相互依存、無責任社会を作りあげたというなんだか不気味な社会が出来上がってきたようです。